うちらがこの業界を変えるんじゃけん！プロジェクト

提案団体：TEAM C.W.S（介護福祉コース）with 八木ゼミ
代表者：医療福祉学科　4年　松谷　敏洋
顧　　問：医療福祉学科　講師　八木　裕子

実施計画

パートナー：広島市域通所サービス連絡協議会（ネットワークミーティング）

実施期間：2012年5月20日～2013年2月28日

奨励金額：327,000円

活動目的：高齢化がさらに進行することが予想される中で、福祉・介護サービス分野は、最も人材確保に真剣に取り組んでいかなければならない分野であり、福祉・介護サービスの仕事が、働きがいのある職業として社会的に認知され、特に若い世代の方々から魅力ある職業として選択される必要がある。そこで介護についての理解と認識を深めるため、実際に業界で活躍される人たちによる介護現場のプレゼンテーション大会を企画することで、本学学生を始め、他分野の学生や地域の方の参加を促し、社会的認知度を進めていく。また現場の方のモチベーションを上げることにより業界が活性化していく。そしてこの企画を通して、否定的なイメージを払拭し、福祉・介護の理解を促進し、この業界の魅力の普及を活動目的とする。

達成目標：大学のある東広島市や広島市にある施設の概要や、各法人で掲げている理念や業務内容などのそれまで知り得なかった介護福祉業界の情報を学生と現場が一緒になって発信することで、多くの人たちの理解を得ることにより、イメージアップにつながり、福祉・介護業界の魅力を普及させることを目指す。

計画概要：①本学学生と職能団体とで実行委員会を立ち上げ、イベントの企画・立案を進めていき、事業所のプレゼンテーション大会を実施する。
②大会終了後は、アンケート調査を実施し、大会から得られた情報について、広島県健康福祉局地域福祉課、本学教員やキャリアセンターへの情報提供をするなど協力体制をとっていく。

予測効果：地域住民に対して、福祉・介護業界の社会的認知を進めることにより、イメージが向上し、福祉・介護への進路選択者が増加し、人材の安定確保につながる。また、学生と福祉業界のスタッフが早めに交流することで、業界のイメージが掴め、学生の進路選択の幅が広がるなどがあげられる。

活動・成果報告

今回のＳＳＰプログラム活動を行うにあたってはじめに手順書を作成し、2012年5月に八木先生の紹介で広島市域通所サービス連絡協議会の方とＳＳＰプログラムに関する打ち合わせをした。

広島国際大学学生にむけての介護関係の就職説明会を開催するにあたって、学生の知りたい情報を把握するために、本学生を対象としたアンケートを実施した。そのアンケート内容をデータ化し、パートナーである広島市域通所サービス連絡

協議会にその情報をもとにしたプレゼンテーションを依頼した。また広島市域通所サービス連絡協議会の方に、プレゼンテーション大会に参加できる法人や企業の呼びかけを依頼した。

その後、会場の下見を行った。机や椅子の配置、会場で使用できる機材などの確認を行い、広島市域通所サービス連絡協議会の方と本番に向けての打ち合わせを行った。

そして、プレゼンテーション大会のポスターやチラシを作成し、校内に掲示した。また、介護業界に興味のある一般の方にも声かけを行った。

11月17日プレゼンテーション大会当日は、司会や机・椅子の移動の指示などを学生や企業の方と連携して行い無事成功することができた。参加された学生や一般の方に、今回のイベントに関するアンケートを実施し、それをデータ化した。

それらの情報をもとに、報告書を作成した。報告書、当日撮影したＤＶＤ、当日使用したパンフレットを封筒に入れ広島市内の大学、専門学校、高校、中学校に送付した。

成　長　度

アンケートの作成にあたって、書き方や記載事項に関する知識がなかったので難攻していた。そこで、インターネットでアンケート例を調べた。また、先生に助言していただきアンケートを作成することができた。これらを通して、書類の書き方に関する知識を得ることができた。

また、今回のイベントを多くの人々に知ってもらうために、報告書やＤＶＤを入れた封筒を広島市の学校に送付してはどうかとパートナーの方に助言をいただいていた。しかし、書類を送る具体的な方法を理解していなかったので、直接郵便局へ行きＤＶＤなど入れた封筒の配送方法を聞いた。

これらのイベントを実施するにあたって、様々な方の協力が必要であることを知った。当日の看板の取り付けや、法人・企業への呼びかけなどは私たちの力では成し遂げられなかったと思う。その中で私たち自身も作業をするにあたり、自らが積極的に動き、失敗が起きないように一つひとつ確認を取り、早めの行動・報告が大切であると学んだ。

パートナーからの企画を通しての気づきや感想

ＳＳＰプログラムを終えて

慢性的な人材不足に悩む、我々の立場から言えば、少しでもコミュニケーションがとれる学生の獲得が急務です。いわゆる「やりたい事」と「やってもらいたいこと」が一致する方です。その為には、就職の為の就職ではなく、就学上の研鑽の結果としての就職でなければいけません。自分が学んだことを活かせる組

織はここだ！この現場で活躍する為には何を学んでおかなければならないのか？が無ければ上記の達成は困難です。それを実現させる取り組みが今回のプレゼン大会でした。この企画に、1から関わった事で、「介護をする」から「介護の仕事に就く」や「社会に出る」ということを実感して貰えたのではないかと思います。介護福祉士の役割は「介護をする」だけではないのですから。

広島市域通所サービス連絡協議会代表　梅田　晶 様

構成メンバー

医療福祉学科　4年　松谷　敏洋、柳橋　賢太
3年　松本　雄介、兼島　圭吾、田中　里美、石橋　奈積、渡邉　将史、日高　拓史